

高校ベンチャー留学2017～第11期生～

4日間の出会いがあなたの人生を変える！

★期	間	平成29年8月1日（火）～8月4日（金）
★参	加	今治市の高校生 7名
★内	容	8月1日（火）～8月3日（木） 関東のふるさと企業2社、日本でいちばん大切にしたい会社へ 選ばれた3社へ訪問。
		8月4日（金） 今治地域地場産業振興センターにて成果発表会

プログラム

タイムスケジュール	
2017年8月1日（火） 高校ベンチャー留学 1日目（東京）	
時間	内容
【留学ゼミ1】 13:30～ 15:30	パイプドHD株式会社へ訪問 代表取締役社長/佐谷 宣昭 氏 
【ミーティング】 18:00～ 19:00	公益財団法人 東予育英会 東予学舎 

2017年8月2日(水) 高校ベンチャー留学 2日目(東京・横浜)	
時間	内容
【留学ゼミ2】 10:30~ 12:00	株式会社アイエスエフネットへ訪問 代表取締役社長/渡邊 幸義 氏  
【留学ゼミ3】 13:30~ 15:00	サイボウズ株式会社へ訪問 代表取締役社長/青野 慶久 氏  
【留学ゼミ4】 16:30~ 18:00	株式会社カヤックへ訪問 代表取締役CEO/柳澤 大輔 氏  
2017年8月3日(木) 高校ベンチャー留学 3日目(東京)	
時間	内容
【留学ゼミ5】 10:00~ 12:00	株式会社ゲットイットへ訪問 代表取締役/廣田 優輝 氏  

時間	内容
【成果発表会】 14:00～ 15:00	東京で出会った社長との対話で、自分の目指す将来には何が必要かを深く考え、目的達成のための計画表「自分プロジェクト」を作りました。それをプレゼン形式でコメンテーターの方や保護者の方の前で発表しました。      

高校ベンチャー留学に参加し、東京の社長さんとお会ってどう感じましたか？



済美高等学校3年生
越智 十希夫くん

僕はたくさんのことに興味をひかれてすぐには行動を起こすタイプで、何か一つのことをコツコツと極めたり、好き嫌いに問わず努力し、ものごとを平均的にこなすことが苦手です。普段はそれが自分の個性と思っているのですが、みんなのように上手く努力できない自分がダメだとも時折ありました。しかし、グットイットで廣田社長の「好きなこと、興味を持てて自分が楽しいと思うことでお金を稼ぐ、思い立ったら即行動！」という言葉聞き、僕は自分の個性を自分で受け入れてその部分を伸ばしていけばいいのだと思いました。実際にそうした考え方を持つ社長が起業家として成功している姿を見ることで、自分も自信を持つことができました。



N高等学校2年生
曾我部 拓実くん

ベンチャー留学に応募しようと思った僕の動機は、友達に誘われたからという安易なものだった。だから、東京までやってきても社長の話が面白ければいいくらいのいい加減な気持ちだった。しかし、いい意味でその期待は裏切られることになった。会いに行った社長の方々は誰もがエネルギーで楽しそうに仕事のことを語ってくれた。僕はそれが意外だった。起業というと難しそう、大変そう、ハイリスクといった負のイメージを強く持っていたからだ。しかし、それ以上に楽しいことだと社長と生で会うことではっきりと認識できた。今では「僕も起業してみたい。」そう思うようになった。



今治東中等教育学校6年生
高田 耀くん

サイボウズでは営業から学べることがあるという話が一番ためになったと思う。それは自分達の生活でも言えることで、学んだことを別の場所で生かすことができるというのは、社会で生きていく上で必要な能力だと思った。サイボウズの取り組みでも同じことが言えると感じた。副業を許可することで、副業の経験を会社に還元にするというのはすごい考え方だと思った。また、副業をしている個人と会社を同時に成長させることができるので効率的だと思った。



今治東中等教育学校6年生
辻 陽斗くん

私がアイエスエフネットを訪れて一番印象に残った言葉は「障がいを持っているということは一つ裏返すと仕事を作れる。」という言葉です。いろんな障がいを持った方が働いている会社を見たのは初めてで、とてもびっくりしました。その中で一つの仕事を細分化してその人に合った仕事を分け与えていることによって働く環境が増えていることを知りました。仕事を見学していると、みんなが協力し合っていて、できないことは助け合っていました。人は障がいを持っていないでもそれぞれ不得意なことがあるので自分もこれからの生活で人と協力して生きていくことが大切だと思いました。



今治東中等教育学校6年生
鎌倉 圭佑くん

柳澤さんの話の中で印象に残ったことが二つあります。まず一つ目は、自分がつくる側になるということです。自分でつくったものを人に楽しんでもらえれば、自分も嬉しくなったり、次の作品をつくりたいと思ったりすると思うので何かを自分で表現することは大切だと思いました。でもぼくはアイデアを出したり、話し合いの中で発言したりすることが今はまだ苦手なので、そこを直して自分がつくる側になって人を楽しませたいと思いました。二つ目はアイデアいっぱいの人には深刻化しないという言葉です。アイデアが出せるのはなんでもポジティブにとらえているからだと思い、そこが今の自分に足りないところだと思いました。今回の話をこれからの生活に生かしていきたいです。ありがとうございました。



今治東中等教育学校6年生
安部 潤輝くん

パイブドHD株式会社の佐谷社長の話の中で印象に残ったことは深い専門性を持つということです。一つでも深く専門的なものを持つことで他の専門性を持つ人をリスペクトでき、他の専門性を持つ人と話すことで面白く新しい考えを生むことができるとおっしゃっていました。私は多くのことができるようになりたいと思っていましたが、この話を聞いて何か専門性を持つことで社会に出たときに武器になることを知り、様々な専門性を持つ人と関わってみたいと思いました。なのでこれから私も専門性を持てるようにしていきたいです。



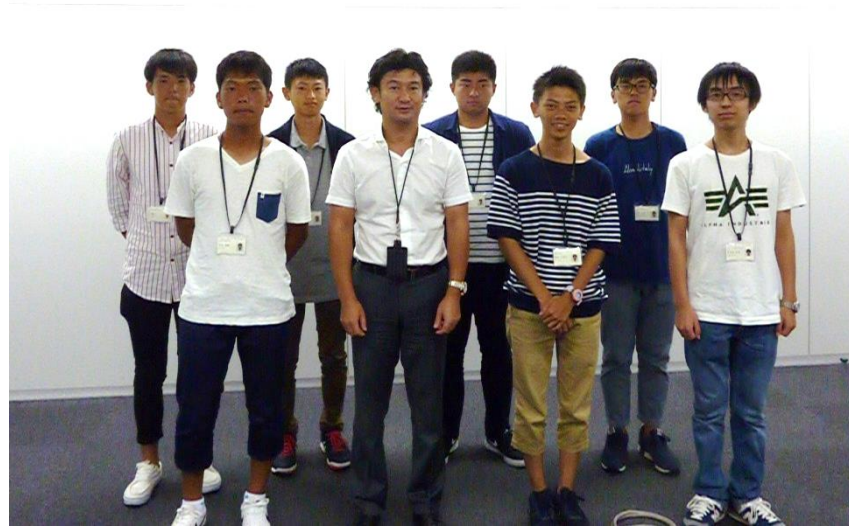
今治東中等教育学校4年生
田窪 駿くん

今回の留学で五社の講座を受け、それぞれの会社に明確な方針がありましたが一貫している点もありました。それは、会社を起業する上でまず、自分が楽しく仕事をするという点です。なぜ楽しく仕事をするべきかと言うと、嫌々仕事をしていてもやる気になれず、社員にまで、自分の意思が移って悪循環になるだけですが、みんなが楽しいとアイデアがふくらみ人がなにより会社が成長していける環境が作れるからです。そして、良い社会を維持するために日ごろから社員と接しお互いの意見を理解し合う関係を築いておくという点でした。こういったことから、日々の生活から社員との距離がわかっていくことがわかりました。

パイプドHD株式会社 代表取締役社長 佐谷 宣昭 氏

奥左から
今治東中等教育学校 6年生
辻 陽斗くん
今治東中等教育学校 4年生
田窪 駿くん
今治東中等教育学校 6年生
高田 耀くん
今治東中等教育学校 6年生
鎌倉 圭佑くん
手前左から
今治東中等教育学校 6年生
安部 潤輝くん
パイプドHD株式会社
代表取締役社長
佐谷 宣昭氏
済美高等学校 3年生
越智 十希夫くん
N高等学校 2年生
曾我部 拓実くん

引率大学生
中央大学
河端 陸人さん
電気通信大学
鎌倉 周平さん
文化服装学院
近藤 勇樹さん



「発想の転換」
僕がパイプドHD株式会社を見学させていただき、佐谷宣昭社長との出会いで学んだことは「発想の転換」の大切さです。社長の言葉で特に印象に残ったのは、「大事なことは増えていくもの、これからは伸びていくものに自分の人生を賭ける」というものです。例えば少子高齢化ならば「減る」というところに目を向けるのではなく、老人が「増える」というところに目を向ける」という考え方は「なるほど！」と思いました。今減っているものの中に、これから増えていく側面を見つけたら、いろいろな方向から物事を眺める視点や発想の柔軟さが大切になります。そういう意味では、僕が目指しているアートの道とビジネスの道がつながって嬉しくなりました。

(越智十希夫)

社長と名刺交換



「専門性を武器に」
パイプドHD株式会社の佐谷社長の話の中で印象に残ったことは深い専門性を持つという事です。一つでも深く専門的なものを持つことで他の専門性を持つ人をリスペクトでき、他の専門性を持つ人と話すことで面白く新しい考えを生むことができるとおっしゃっていました。私は多くのことが出来るようになりたいと思っています。話を聞いて何か専門性を持つことで社会に出たときに武器になることを知り、様々な専門性を持つ人と関わってみたいと思いました。なのでこれから私も専門性を持てるようにしていきたいです。

(安部潤輝)

「強みの探求」
佐谷さんの話の中で印象に残った言葉が二つあります。まず一つは専門性が大切だということです。一つ自分の強みを持つことが必要といわれ、自分の強みは何があるか考えましたが、これといって飛び抜けたものが見つからなかった。そこで、探していきたいと思いました。二つ目は増加していく物に視点をおくということ。少子高齢化で子どもが減っていつに増えるけど、逆を言えば高齢者は増えていつに減る。という言葉を聞いてとても驚きました。増えていくものに目を付けられればそこからビジネスが生まれてくる。この二つを意識してこれから生活をしていきたいと思いました。

(鎌倉圭佑)



『高校ベンチャー留学2017』新聞 2017. 8/1 ~ 8/4
主催・今治地域地場産業振興センター

株式会社アイエスエフネット 代表取締役社長 渡邊 幸義 氏

「長所を最大限に生かす」

僕が、株式会社アイエスエフネットの社長渡邊幸義さんとの講座で、心に残っている言葉は、「一人の能力を平均的に伸ばすのでは無く、自分が自信を持つてできることを最大限伸ばしきると言う言葉です。なぜこの言葉が心に残っているかというと、自分が得意なことや自信を持っている才能を埋めさしてしまう、そうさせないために自分の才能を活かすことができる社会にしていくなすべきという考え方が僕と似ていたからです。そして、渡邊社長は自身の会社で実行し、成功させています。このことから、渡邊社長との講座で心に残った言葉を、僕のこれからの人生で役立てていきたいです。

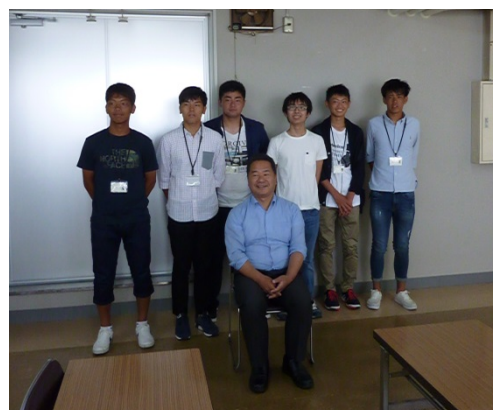
(田窪駿)



「助け合いの重要性」

私がアイエスエフネットを訪れて一番印象に残った言葉は「障がいを持っていてということは一つ裏返すと仕事を作れる。」という言葉です。いろんな障がいを持った方が働いている会社を見たのは初めてで、とてもびっくりしました。その中で一つの仕事を細分化してその人に合った仕事を分け与えていることによって働く環境が増えていることを知りました。仕事を学んでいると、みんなが協力し合っていて、できないことは助け合っていました。人は障がいを持っていないけれどもそれぞれ得意なことがあるので自分もこれからの生活で人と協力して生きていくことが大切だと思いました。

(辻陽斗)



サイボウズ株式会社 代表取締役社長 青野 慶久 氏

「チームワークあふれる会社」

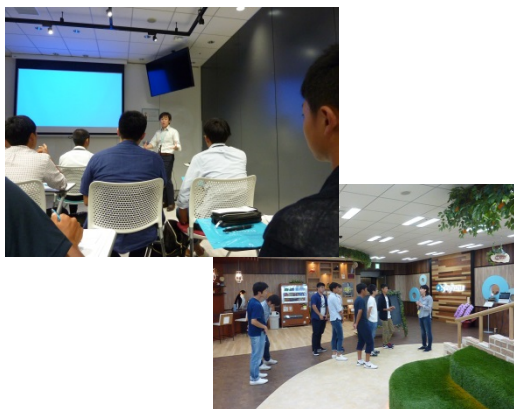
私がサイボウズを訪れて印象に残った言葉は「チームワークあふれる社会・会社を創る。」という言葉です。その言葉の通り、育児休暇や在宅勤務などの工夫をすることで離職する人を減らして、社員をとっても大切にしていると感じました。離職する人が多い時期があったのにいろいろな工夫によって会社を立て直したのはとてもすごいと思いました。他にも社長が言った「本気になって真剣に志を立てることが大切だ。」ということも印象に残りました。本気になって考えることで新たなことを発見できることを知り、自分も何かうまくいかない時に本気になって考えてみようと思いました。

(辻陽斗)

「個人と会社の成長」

サイボウズでは営業から学べることがあるという話が一番ためになったと思う。それは自分達の生活でも言えることで、学んだことを別の場所で生かすことができるというのは、社会で生きていく上で必要な能力だと思つた。サイボウズの取り組みでも同じことが言えると感じた。副業を許可することで、副業の経験を会社に戻元するというのは、すごい考え方だと思つた。また、副業をしている個人と会社を同時に成長させることができるので効率的だと思つた。

(高田耀)



(曾我部拓実)

「生き生きとしたオフィス」

サイボウズはいい感じの企業らしい。それくらいに予備知識を行き来する電車の中で身につけていた僕は、いったいどんなところなんだろうかと、一人期待を募らせていた。僕はオフィスというと厳粛で単調、座っているだけで気疲れしそうな独特の雰囲気想像する。しかし、案内されたサイボウズオフィスは僕の想像を全く逆にしたようなところだった。小学校の教室よりも自由な空気で、社員も生き生きしているように見えた。職場の雰囲気を変えようと様々な取り組みをしている企業があることは知っていたが、生で見るとなかなか衝撃的で、僕の仕事観をひっくり返す程だった。

高校ベンチャー留学2017 公益財団法人 東予育英会 東予学舎

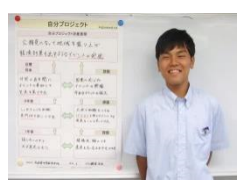


東予学舎：愛媛県東予地区の高校を卒業し、関東へ進学し入学見込の男子学生が利用できる学生寮。



◇東予学舎の食堂を利用し、振り返りを実施しました。

高校ベンチャー留学2017 成果発表会



東京で出会った社長との対話で、自分の目指す将来には何が必要か深く考え、目的達成のための計画表「自分プロジェクト」を作りました。それをプレゼン形式でコメントーターの方や保護者の方の前で発表しました。

「起業のエネルギー」

ベンチャー留学に応募しようと思った僕の動機は、友達に誘われたからという安易なものだった。だから、東京までやってきても社長の話が面白ければいいくらいいい加減な気持ちだった。しかし、いい意味でその期待は裏切られることになった。

会いに行った社長の方々は誰もがエネルギーで楽しそうに仕事のことを語ってくれた。僕はそれが意外だった。起業というと難しい、大変そう、ハイリスクといった負のイメージを強く持っていたからだ。しかし、それ以上に楽しいことだと社長と生で会うことではっきりと認識できた。

今では「僕も起業してみたい。」と思うようになった。

(曾我部拓実)

「楽しく仕事・楽しい会社」

今回の留学で五社の講座を受け、それぞれの会社にも明確な方針がありました。一致している点もありました。それは、会社を起業する上でまず、自分が楽しく仕事をするという点です。なぜ楽しく仕事をするべきかと言うと、嫌々仕事をしてやる気になれず、社員にまで、自分の意思が移って悪循環になるだけですが、みんなが楽しいとアイデアがふくらみ人がなにより会社で成長している環境が作れるからです。そして、良い社会を維持するために日ごろから社員と接しお互いの意見を理解し合う関係を築いておくという点でした。こういったことから、日々の生活から社員との距離がわかっていくことがわかりました。

(田窪駿)